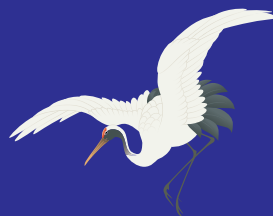


第 209 号
2012.01
正月号



はぎ

愛有会通信

「こつこつと働こう、そして挑戦しよう」

常務理事・久米川病院 院長 阿部 真也

「新年を迎えて」

理事・経営管理本部 本部長 高野 英文

「絆と信頼」

経営管理本部 副本部長 浅野 孝幸

「甦れニッポン! 進め三愛!」

理事・三愛病院 院長 堀米 政利

「平凡な日常に感謝をこめて」

三愛病院 看護部長 船越 俊子

「新年のご挨拶」

評議員・三愛病院 経営管理部 部長 伊藤 政芳

「新年のご挨拶」

理事・久米川病院 看護部長 佐藤 利枝子

「私の選んだ言葉」

久米川病院 事務長 服部 智美

「16年目の「はぎやま」は、」

評議員・訪問看護ステーションはぎやま 所長 佐野 みゆき

「医療との連携」

指定居宅介護支援事業所はぎやま 所長 高橋 佐知子



特別医療法人社団 愛有会

愛有会の基本理念

私たちは人の命の重さをかみしめ、
病や障害に悩む人々が人間らしく生きていくことを
支援するために全力を尽くします。
そのために次のことを実践します。

1. 患者さまを自分の家族と思って医療・介護にあたります。

人としての尊厳を重んじ、人間への愛情と思いやりをもち、敬う心と親しみをもって、患者さまやご家族に満足と喜びを感じていただけるように、仕事にあたります。

2. 相手の立場に立って、もし自分だったら何を望むかを考えて医療・介護にあたります。

医の心、介護の心をもって、患者さまの体と心を一体として癒すことにつとめ、生きる希望と意欲をふくらませるように仕事にあたります。

3. わたしたちは、医療と介護を通じて患者さまの自立を促し、社会生活や家族生活に復帰していただくことを目標とします。

命ある限り、どんな病気や障害にもあきらめることなく、手をさしのべ、共に生きながらいろいろな可能性を求めて仕事にあたります。

4. わたしたち職員は、前進と向上のために常に考え、学びながら、一致協力して誇りの持てる仕事をします。

よりよい医療・介護の実践のために、どうすればよいのかを考え、勉強すること。

そして、職員同士が互いに敬意と信頼をもとに協調して、満足感・達成感のある仕事を目指します。

5. わたしたちは、どんな環境にも負けない、しなやかで粘り強い組織づくりを目指します。

さまざまな環境の変化や社会の要請に対して、柔軟で前向きな思考でのぞみ、全職員の力を結集して不可能を可能とし、人々の信頼に支えられた発展を目指します。

こつこつと働こう、 そして挑戦しよう

特別医療法人社団 愛有会 常務理事
久米川病院 院長

阿部 真也



昨年の大震災と原発事故は、人々の考え方と行動に大きな転機をもたらした。絆という言葉が1つのキーワードになった。

被災した方々にとっては、お金や物資や住宅といった生活の支援よりも、生活の自立こそが最も望んでいることと思う。

生活の自立とは、自ら収入を得ることであり、そのための仕事の間を確保することである。行政の役割は一刻も早くその実現をはかることであろう。

災害に強い街づくりといった事業には、計画、設計から完成までに何年もかかり、さらに費用もかかる。そして決して完全なものなどできない。いつまた地震や津波がくるか誰もわからない。来たらすぐ逃げればよい。逃げられるようにすることが守ること。命があればまた働ける。

まずは、復興殖産特区をつくり、そこに被災した人々が集まり中心となって会社をつくる。全国から企業やベンチャーを誘致してもよい。商品は全国の自治体や企業が購入する。

学校は分校をつくり、病院は全国の大学病院をはじめ多くの病院から職員を派遣させてつくる。働けない虚弱な高齢者には、病院と併設したホームをつくる。そうして、家族がばらばらになったり、地元から離れることなく暮らせるようにする。

人間は勉強するだけでは何にもならない。仕事に就いてこつこつと働

くことが一番強くて正しい生き方である。そして、より良いもの、より新しいもの、独自のものに挑戦し、実現すること。これが今を生きる人間のやるべきことであり、次の世代にひき継いでいくことである。

久米川病院は、平成 19 年 2 月に「医療及び介護サービス分野」で品質向上のためのマネジメントシステムを取り入れている施設であることと認めるISO9001：2000の認証を取得し、平成 22 年 3 月に、ISO9001の2008年版で認証の更新をしています。

久米川病院 ISO品質方針

1. より高い安全性を追求しミス・事故や患者トラブル・法令違反のない病院であることを目指す。
前年度以下に低減することを目標とする。
2. 前年度より、在宅復帰・施設復帰率及び回復率を高め、社会の公器たる病院の適正かつ有効な運営を行なう。
3. 高品質の医療・介護・健診の提供のために、機器の整備・人材の育成及び研修を進め、利用者の高い満足度を得られるよう努力する。
4. 品質マネジメントシステムを組織に広く浸透させ、その力を発揮させるために、新たな内部監査員の持続的な育成と、監査員の能力の向上の為に研修の機会を設ける。
5. 品質を支える職員の労働環境を継続的に改善し、職員の心身の健康保持に必要な整備を行なう。



ACCREDITED COMPANY

BS EN ISO 9001:2008



Registration Number

046

登録番号：QAIC/JP/0101

新年を迎えて

特別医療法人社団 愛有会 理事
 経営管理本部 本部長
 高野 英文



昨年の大震災の発生や国家の社会保障に関する全く不透明な国の施策を前に当法人の事業計画の立案や新年度の予算計画案の策定もままならない状況は、私に取りましても初めての体験であり、この法人広報誌「はぎ」の原稿は、書き直しを3回続けてまいりました。見送りました原稿は、現状の国政への「怒り・不満・不安」を憲法や政党史に絡めたものでしたが、新年のご挨拶には不向きと思い、本年は、当法人の経営管理本部のご紹介をさせていただきます。

経営管理本部は、当法人の発展とそれを支える法令遵守の徹底や重要な管理部門の人事管理、新規のプロジェクトの策定立案・個々の事業所の課題解決・大小のミッションの実施などを主な業務とし、更に本部職員の育成とそれら職員の各事業所への出向などを担っております。以下では、病院創業以来の考え方を私たちに咀嚼しそれらを基本方針とした内容の一部をご紹介します。

「具体的行動方針」

右に掲載したロゴマークは、「企画・計画（プラン）」→「実行（DO）」→「プロセスや結果の検証（チェック）」→「新たな行動に移す（アクション）」の流れを、



時間という過去・現在・未来を縦軸にし、平面から3次元の図柄として、エンドレスに繰り返される取り組みの先に、品質の向上と改善があるという思いを絵柄にいたしました。

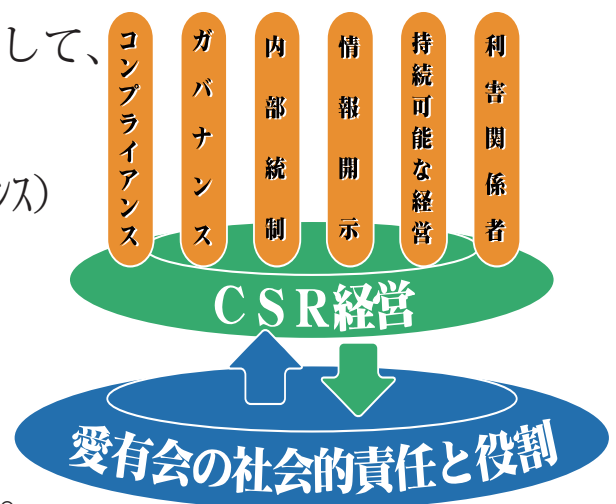
「基本的行動指針」→「CSR経営の実践」

CSR経営とは、「Corporate Social Responsibility」の略で、直訳すると「企業の社会的責任」とされています。絶えることなく続く企業犯罪に対して経営のあるべき基本姿勢です。これを単に「責任」と捉えるだけでなく当法人が社会から得られる「信頼」であると考えます。国際的な定義としては、「企業（病院）が患者とその家族・従業員と地域社会、そして社会全体の生活水準の向上のために、これらの利害関係者（ステークホルダー）と協働しながら持続可能な発展に貢献する事」とされています。このCSR経営にとって大切なことと考えるのは、様々な利害関係者（ステークホルダー）との双方向のコミュニケーションであり、これを前提としてステークホルダーとの「信頼関係」が成長するものと考えます。

このような「CSR」経営の基本要素として、

- ① 法令・倫理の遵守（コンプライアンス）
- ② 企業統治・内部統制の確立（ガバナンス）
- ③ 情報開示責任（ディスクロージャー）
- ④ 持続可能な経営責任（サステナビリティ）
- ⑤ 利害関係者への責任（ステークホルダー）

があります。



今後とも、地域医療に貢献し、「愛有会」の社会的役割と責任の達成に向けて本部として全力を尽くしてまいります。

絆と信頼

特別医療法人社団 愛有会
経営管理本部 副本部長

浅野 孝幸



昨年は、東日本大震災という日本史上例を見ない大災害に見舞われ、多くの方々が心を痛めた忘れられない一年となりました。甚大な被害を目の前にして日本中が深い悲しみに包まれた一方で、国民が同じ感情を共有して苦難に立ち向かう姿に深い感動も覚えました。一人では出来ないことも、協力し合い、励まし合い、助け合うことで未来の希望に繋げていく姿に人々の強い「絆」を感じました。

被災地へは、国内のあらゆる地域から、また、諸外国からも多くの支援が寄せられました。復興にはまだまだ長い年月が掛かることと思いますが、不思議とこれだけの災害を受けながらも「日本は必ず復興される」という確信にも近い感情を国内外から感じます。

それは、日本のこれまでの歩みの中で、日本人の苦難に負けない精神力や、相手を思いやる心、勤勉さといった国民性が世界に理解され、その積み重ねによっていつしか「信頼」として映るようになったからではないかと思います。

愛有会は法人設立から数えて今年で41年目を迎えます。社会情勢は過去に例をみない超高齢化社会に移り変わっていく中、医療情勢も変革の時を迎えています。特に今年は大規模な医療制度改正が予定されてい

る節目の年でもあり、法人の各事業所においても、しっかりと将来を見据えた事業計画の下で、より一層の地域貢献を果たせるよう益々歩みを強めていかなければなりません。

大災害からの日本の復興と発展が世界から信頼を得られているように、愛有会の事業運営においても、社会の情勢がどのように変化しても必ず皆様方からのご期待にお応えできる「信頼」を得られ続けられるように、これからも地域との絆を深めながら一年一年の歩みを大切に努力して参ります。本年もご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



本年もよろしくお願ひします。

経営管理本部一同

甦れニッポン！ 進め三愛！

特別医療法人社団 愛有会 理事
三愛病院 院長
堀米 政利



新年を迎えても「明けましておめでとうございます。」と言うのも憚られるくらい、3.11は余りにも凄惨な傷跡を残しました。森林の伐採や進む地球の温暖化など、自然破壊に対する神様の怒りではないかという気がします。我々は今、改めて「人類も大自然の中で生かしてもらっている」と言うことを考え直さなければならないのではないのでしょうか。

災害直後、世界の多くの人々は、日本におけるこの災害を第2次世界大戦での敗戦とオーバーラップさせながら、「日本は必ずや逞しく復興する。」とコメントしていました。しかし、最近では‘事なかれ主義’日本の隠ぺい体質に驚き、かつ辟易としつつ、不信も露わに日本の国際的評価は大きく失墜しつつあります。果たして今の日本に「坂の上の雲」をつかむ力があるのでしょうか？神は試練を耐えられる人に試練を与えると云います。日本人の英知と勤勉さと底力を信じたいと思います。

さて、三愛病院は1昨年10月には日本慢性期医療協会の認定を受け、そして昨年11月には日本医療機能評価機構の再認定調査を受けました。特別な準備をしたわけではなく、日常こなしている業務を系統的にまとめあげたり、マニュアルの見直しや改訂が主な作業でした。評価結果は未だ通知されていませんが、受審時の講評では、いくつかの要望事項を

含めてもかなりよい評価であったように思います。これは常日頃、阿部常務理事や高野本部長からの経営管理に関する指示が的確であった証左であり、職員はその指示に従い、満点ではないにしてもそれなりの頑張りを見せてくれた結果でもあります。ただ残念なのは、少数ながら認定調査を受けることの意義をしっかりと理解できず、「やらされている」と感じた人たちがいたことです。認定を受けることが目的ではなく、良い病院を作るために助言を頂いている、と考えればよかったですでしょうが・・・その目的をはっきりさせられなかった管理職たる僕らに責任があると反省しています。

とは言え、この認定調査により、三愛病院は確実に一步先に進むことが出来たと思いますし、この先の道標を見つけることが出来たと信じています。この道標のもとに診療や介護、接遇、環境等々すべてに満足していただける病院作りを目指し、さらに力を合わせて頑張りようではありませんか！

本年もよろしくお願ひします。



三愛病院 基本方針

わたしたちは「人としての尊厳」を重んじ、 その人らしさを大切にします

1. 利用者・家族の権利、意思を尊重すること。たとえ病気、障害等により自分の意志が伝えられない心身状況にあっても「人としての尊厳」に常に配慮すること。
2. 利用者にとって適切かつ安全な医療・看護・介護サービスを受けられるように、地域における医療機関・福祉施設および関係諸団体等との密接な連携をとること。
3. 病院が提供できる医療・看護・介護サービスの内容について十分な説明を行い、同意を得ること。
4. 職員はチーム医療・介護をもって、利用者の有する機能・能力を最大限に発揮できるような自立支援するとともに、利用者・家族が満足するサービスの提供に努めること。
5. 質のよい高齢者医療、介護サービスを提供するため、院内外の職員研修の充実化を図ること。また、各種学会・研究会にて演題発表等を行い、常に職員の医療・介護に対する向上意欲を高めること。
6. 当院のもっている医療・看護・介護能力を活かし、地域に求められている在宅支援、講演活動、研修生等の受入れにより、社会に貢献すること。
7. どんな医療・介護情勢下にあっても、安定した運営および財務基盤を確保するため、最大限の努力をすること。

東村山名所めぐり
(野口町)

北山公園



東村山駅より徒歩約20分。多摩湖の狭山丘陵を背景にした自然公園で、新東京百景にも選ばれています。初夏には10万本もの花菖蒲が咲き乱れ、「東村山菖蒲まつり」が開催されます。170種類の菖蒲の中には珍しい黄色の菖蒲をみることもできます。



平凡な日常に感謝をこめて

三 愛 病 院 看 護 部 長
舩 越 俊 子



迎春、度重なる災害に見舞われた昨年。

東日本大震災では生涯かけて築き上げた全てを奪われた方、未だ放射能汚染で生活の基盤さえなく新年をお迎えの方。一瞬にして人生の闇に突落されながら命を得られた方の、生かされた命。その後の生活を見聞きする度に心が痛みます。計画停電はありましたが、安住できる地がある私達も「生きる意味・人生の有様」を問うた一年でした。

法人としては、品質（人材・財務・顧客・組織管理等）の向上を重要事業計画とし、三愛病院部署毎の具体的目標を掲げて取り組んでいます。更に、十一月の病院機能評価では、機構が求める病院の質に向かって業務の見直しに取り組みました。評価内容を読み解く中で、患者中心の病院のあるべき姿、介護療養では患者様の生活の場としての役割、家族・社会との繋がりの中で患者様を支援する体制等、三愛病院が向かうべき方向性について再確認し改善に取り組んでおります。職員一人一人の改善への取り組みが今後の看護・介護ケアの質向上へと繋がります。「継続は力なり」新年にあたり自身の命があること、人が人の為に来る職業を得たことに感謝し、患者様の「夢」、自身の「夢」が叶えられるよう目標を見失わず進みます。

今後ともご指導頂きますようお願い致します。

新年のご挨拶

特別医療法人社団 愛有会 評議員
三愛病院 経営管理部 部長

伊藤 政芳



明けましておめでとうございます。

昨年は、東日本大震災という千年に一度とも言われる出来事に、日本中が心を痛めた年でした。自然を前にして、人間の弱さを改めて噛みしめたのと同時に、そこから立ち直ろうとする人間の力も感じ取れた年でした。震災以外にも、世界では多くの災害や政治の変革、金融・財政の危機など難問が山積した年でした。日本の財政も決して予断を許さない状況であり、景気の動向も含めて、私たち医療業界も先が見えない状況がしばらく続くものと予想されます。介護療養病床の廃止も昨年ストップがかかり、取りあえず6年間の延長が認められました。しかし、今年は診療、介護報酬同時改定も控えており、今後ますます厳しい環境が待ち受けていることに変わりはありません。

平成23年度の事業計画では「品質の向上と可視化への取り組み」を掲げました。この方針は、24年度も引き続き継続・強化していきます。世の中がどんなに変わろうとも、老人医療の明日を担う専門病院としての三愛病院のスタンスは揺るがないと思います。環境の変化に、臨機応変に対応できる強靱でしなやかな病院を目指して、職員一丸となってがんばっていきます。

昨年暮れに発表された「今年の漢字」は「絆」でした。何でもない、

誰でも知っている言葉ですが、何かの出来事があるとその意味の深さ、重さがしみじみと伝わってくる言葉です。私たちにとっては「患者様と家族の絆」、「患者様と職員の絆」、「地域と三愛病院の絆」等々さまざまな絆を思い浮かべることができます。絆という言葉は、三愛病院の名称の由来である「三つの愛」にもつながる言葉だと思います。

本年もどうぞよろしくお願ひ致します。



あきるの名所めぐり

(あきる野市引田)

真照寺



五日市街道の引田辺りから秋留台地の急坂を南に下っていくと銀杏の大木とともに古びた山門が現われます。山門は間口が狭く感じるのですが、近づくと重量感があり、所々色褪せた朱塗りの風合いが見事です。山門を入ると左手は広い庭になっており、本堂、鐘楼、薬師堂が配置されています。真照寺は、真言宗豊山派のお寺で、創建は 891 年（平安時代）、現在の地に移ったのは 1531 年（室町時代末期）とされています。薬師堂は都指定有形文化財、山門は市指定有形文化財になっています。

場所：J R 五日市線武蔵引田駅の南約 1km。



新年のご挨拶

特別医療法人社団 愛有会 理事
久米川病院 看護部長
佐藤 利枝子



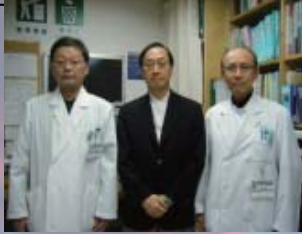
新年あけましておめでとうございます。

去年は看護部長という職務につき皆さんに支えられた1年でした。今現在どれだけ成長できたのか分かりませんが、立場が変わると接し方も変わり、今まで見えなかったものが見えてきました。看護部が事務部やコメディカル部に支えられている事が実感できました。これからも患者さん（病や障害に悩む人々）が人間らしく生きていくことを支援するためにがんばって行きたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

平成24年は医療・介護報酬ダブル改定が予定されています。在宅支援の強化が言われているそうです。病院ではあまり在宅は関係ないように思えるかもしれませんが、医療必要度の高い方が在宅に多くなると予測され、訪問看護の必要性が増え、風邪などを引くと重症化しやすく、入院の必要性も高まります。当院はそこを支援していく役割を担っていくことになるかと予想されます。一般病棟と介護病棟の機能を活かし、地域に貢献できればよいと考えています。

去年は大震災があり、いろいろ考えさせられました。関東でもいつ何時直下型の地震があるかわかりません。その時に備え、様々な取り組みを進めています。病院では耐震補強工事を行っています。食料の備蓄も検討しています。物の準備、心の準備、人とのつながりを大切にしていきたいと思っています。病院でも家庭でも「備えあれば憂いなし」の気持ちで準備をしていきたいと思っています。本年もご指導ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

明けましておめでとうございます 本年もよろしくお願ひ申し上げます



医 局



看護部



西病棟



3 階病棟



2 階病棟



外 来



リハビリテーション科



薬 局



検査科



栄養課



放射線科



社会福祉相談室



保育所



健診部



別館事務部



医事課・情報管理室

私の選んだ言葉

久米川病院 事務長
服部 智美



新年明けましておめでとうございます。

去年は、計画停電・台風・落雷と災害時の対応が試された年となりました。常日頃「組織で考え対応する」という理念からコミュニケーションの多い当院では、課題は残るものの職員の多くの言葉で考え、支えあい乗り越えることができました。

そんな言葉の持つ力を感じながら、自分にとって都合の良い言葉より、耳の痛い言葉の方が後になって成長してきたと気づく歳になり、言葉の重さを改めて考えさせられた年となりました。

いつからか素敵な言葉に出逢った時、手帳に書き取って月の終わりにランキングする楽しみを持つようになった私が、去年選んだ「素敵な言葉」ベスト3は次のとおりでした。

第3位 「どれだけ心に栄養をつけたか」2月

身体に栄養をつけないと力が湧かないように、何かを創り出す時、忍耐力・理解力・真実の優しさ等の栄養を感じる心を養っていないと良いものはできない。

第2位 「自分の言葉を自分が渡る橋だと思え」7月

自分が川を渡るとき、この橋はしっかりしていて、落ちることはないかよくよく見てから渡るように、言葉もよく考え責任ある言葉を発するようになる。

第 1 位「人生はその人の時間の旅」 11 月

時間は皆平等にあるというが、夢中になるとアツと言う間に過ぎるが、つまらないと長く感じる。時間の使い方が人生の質を変える。悔いのない時間の旅を送りたい。

言葉は、自分自身が「今・ここに・いる」その瞬間に影響を与えられているものです。昨年の言葉を栄養に、素敵な言葉との出逢いを楽しみにし、それをまた糧にしながら今年もより良い病院づくりに邁進していきたいと思えます。本年もご指導ご鞭撻賜りますよう心よりお願い申し上げます。

.....
久米川病院は、平成 20 年 5 月に環境・資源の保全に取り組む施設であることを認めるエコアクション 21 の認証を取得しました。

久米川病院 環境方針

久米川病院では、環境・資源の保全に取り組むために、下記のとおり環境方針を定めます。

1. エコアクション21に準拠したマネジメントシステムを構築し定期的な見直しを行いながら、計画的に取り組みを実施します。
2. 当院の環境・資源への影響と取り組みの状況について定期的な把握・評価を実施します。
3. 取り組みを推進するために教育・研修を行います。
4. 環境関連法規やその他の関連法規を遵守します。



認証・登録番号
0002455

16年目の「はぎやま」は、

特別医療法人社団 愛有会 評議員
訪問看護ステーションはぎやま 所長

佐野 みゆき



「訪問看護ステーションはぎやま」は、平成23年12月1日をもって創設以来15年を過ぎて16年目を迎えることとなりました。ひとえに皆様のお蔭と深く感謝しております。

今日に至るまでには、いろいろなことがありました。利用者様との関わりの中で、たくさんの出会いと別れがあり、多くの方を看取らせていただきました。また、スタッフの入れ替わりもありました。

そして、現在は170名を超える利用者様と、21名のスタッフで「はぎやま」は成り立っています。現状に満足せず、更なる飛躍を目指してスタッフ一同頑張る所存です。

また、今年は医療・介護報酬のダブル改正があります。どのように改正されるのか、在宅にとって追い風となるのかしっかり見極め、乗り遅れないよう学習していきます。訪問看護はもちろんですが、リハビリにも力を入れてきました。今後も利用者様のQOL(生活の質)が向上するように、より一層の充実を図りたいと思っています。

さらに、平成24年度に新しく導入しようと考えられていることがあります。訪問看護師の不足に対して、どうしたら就業率を上げることができるかを考えています。ひとつの試みとして、体験訪問や見学を随時受け入れたり、看護学生の実習の受け入れを継続して行っていますが、もっと病院や地域に浸透させ、分かりやすく訪問看護を広めていきたいと思

います。

昨年の3月には未曾有の大震災で、多くの命が失われました。青森出身の私も東北・福島の実情になすすべもなく、無力感を抱きながらも何かできることを必死に考え、前に進むことの大切さを学びました。だからこそ、今年はみんな笑顔で、幸せな気持ちで一年を過ごせるようになりたいと心から願っています。

さあ、また新しい一年が始まります。気持ちを新たに、そして20周年には盛大なお祝いができるようにしたいですね。



本年もよろしくお願ひします



医療との連携

指定居宅介護支援事業所はぎやま 所長

高橋 佐知子



昨年中は皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。大変な事が多くあった1年だったと思いますが、今年は良い年になりますようお願いしております。

私は今、在宅医療サポートの研修に参加しています。医療的ケアを含めたケアマネジメントの充実を図る為に、東京都が実施している全9回の研修です。私自身介護職の経験だけで、医療的な知識があまりない為、今回の研修に参加する事にしました。参加人数も多く、皆関心のある事なのだと感じました。内容は医療の知識から歯科医療、薬の事、訪問看護やリハビリテーション等で、それぞれの専門職による講義と、実際のケアプラン作成、入退院時の連携の方法などです。私たちの居宅介護支援事業所は、訪問看護ステーションと併設している事もあり、医療的な処置のある方や連携が必要な方のプラン依頼が多くありますが、看護師が一緒にいる為、分からない事もすぐに聞くことができるので、恵まれた環境で仕事ができていると感じています。日々の業務の中から学んでいく事も多いと思いますが、最低限の知識は身につけていたいと考えていた為、今回の研修を受講することになりました。

今後の研修では、実際にケアプランの作成を行う事になっています。他の事務所のケアマネージャと意見交換をしたり、自分では気づかない

事や新しい発見ができるこの機会を大切に、真剣に学びたいと思います。医療との連携はもちろんですが、他職種の方達ともしっかりと関係を作り、より良いサービスを提供していきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

.....

本年もよろしくお願ひします。



愛有会経営方針

1. 地域、特に二次医療圏における医療と介護の拠点としての責務を自覚し、
2. 安全で安心な全人的医療と介護の提供により信頼感を高め、
3. 時流を見誤ることなく、組織の体質強化と持続的発展につとめ、
4. 利用者の皆様に強く支持される医療・介護機関であり続けること。

そのために、次のことを基本方針とする。

1. 二次医療圏における地域の住民や医療・福祉機関および関係諸団体と友好的で信頼感に基づいた緊密な連携をとりながら、地域に安全で安心な医療、介護体制をつくること。
2. 急性期から慢性期、そして在宅に至るまで、一貫した医療、リハビリ、介護の体制をつくること。
3. 患者さまおよび利用者の意志と権利を尊重し、かつ開示に耐えられる透明性の高い医療と介護のために、十分な説明と同意に基づいてサービスを行うこと。
4. ミスや事故に対する感性を高め、職場の安全管理基準を高めることにより、患者さまおよび利用者の安全を最優先する組織風土づくりをすること。
5. 愛有会の安定した維持運営と持続的発展を担う能力をもった強力な事務部門をつくること。外においては、社会情勢や制度の急速な変化に目を配り、内には、リアルタイムに現状の把握と分析を行い、予防重視のリスクマネジメントを心がけ、事業計画の立案、検証、実行が行える体制づくりをすること。
6. 愛有会は、高い技術と最新の知識を身に備え、人間愛と医の心、介護の心を持ち、人のため、世のために献身する職員の集合体であることを目指す。

特別医療法人社団

愛有会

www.aiyukai.jp

特別医療法人社団 愛有会
経営管理本部
東村山市萩山町3丁目3番地10
TEL 042-390-2033

特別医療法人社団 愛有会

久米川病院

www.aiyukai.jp

〒189-0012
東村山市萩山町3-3-10
TEL 042-393-5511

特別医療法人社団 愛有会

三愛病院

www.aiyukai.jp

〒192-0005
八王子市宮下町377
TEL 042-691-4111

特別医療法人社団 愛有会

訪問看護ステーションはぎやま

www.aiyukai.jp

〒189-0012
東村山市萩山町3-2-2
グリーンハウス 1階
TEL 042-396-7700

特別医療法人社団 愛有会

居宅介護支援事業所はぎやま

www.aiyukai.jp

〒189-0012
東村山市萩山町3-2-2
グリーンハウス 1階
TEL 042-396-7700

愛有会通信「はぎ」第209号

発行 特別医療法人社団 愛有会
東京都東村山市萩山町 3-3-10
042-390-2033

編集 はぎ編集委員会

印刷 経営管理本部